

札幌くらぶ

No. 43



発行/札幌くらぶ(財)札幌交響楽団内
 札幌市中央区中島公園1番地15号(札幌コンサートホール内)
 HPアドレス <http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html>
 Eメール sakkyoclubmail@yahoo.co.jp

平成20年度 札幌くらぶ総会開催

～札幌くらぶ会員の札幌交響楽団への楽譜支援が大きな輪になっています～

平成20年度札幌くらぶ総会が、去る5月24日(土)キタラ2F大会議室で開催されました。

冒頭挨拶に立った上田会長から、札幌交響楽団が市民・道民に与えている音楽文化は年々大きくなっている。そこで札幌くらぶの果たす役割は益々期待されている。来年度再開が予定されている「札幌くらぶコンサート」を成功させ、益々札幌交響楽団を応援する力を大きくしようと呼掛けました。

また、来賓には、西村札幌専務理事、宮澤事務局長が出席され、札幌交響楽団の経営が一時の不安定な状況から一応脱している、何とか軌道に乗りつつあることについて感謝しています。また札幌くらぶの楽譜支援にも謝辞がありました。今年は新たなCDの企画もあり、500回記念の演奏、4月のエリシュカさんの定期、来年3月の尾高さん北欧シリーズがCDになる予定で期待して欲しいと述べられました。

議事の中で、楽譜支援について

報告があり、何と平成19年度で初めて50万円を超える支援金が集まりました。この中には、札幌定期演奏会には聴きにいけないが楽譜支援なら出来ます！何かお役に立ちたい！少額ですがお役に立つなら！…このようなことでお寄せいただいた札幌くらぶ会員さんが沢山おられます。感謝すると共にその使い道を下表で報告させていただきます。これからもご楽譜支援をよろしくお願いいたします。

演奏会を聴いた後は、沢山の会員と団員さんが参加され、にぎやかに札幌くらぶ交流会が開催されました。お目当ての団員さんの色紙サイン会やまた個人演奏会を予定している団員さんはコンサートの案内をおこない盛り上がりしました。

札幌くらぶも会員をもっと拡大し、札幌定期会員を増加させるためこれからも頑張っていきます。どうぞ応援をよろしくお願いいたします。

(札幌くらぶ副会長 西川吉武)



ラフ協議会総会(今年は山形)に参加します。

- ・札幌くらぶ創立10周年記念誌を発行します。(12月発行予定)
- ・会報の年4回発行を継続します。

また、「会員1人が、新会員1人紹介」を合言葉に、札幌くらぶ会員の拡大に力を入れていきます。同時に、札幌定期会員の拡大にも協力していきます。21年度に復活する「札幌くらぶコンサート」を成功に導くためにも、会員の拡大は必要となります。皆様の会員拡大へのご協力を切に望みます。



札幌くらぶ 本年度の主な活動予定

- ・札幌の維持会員と楽譜支援を継続します。
- ・札幌と札幌くらぶの交流会を開催します。
- ・練習見学会を復活します。
- ・日本プロオーケストラファンク



支払日	公演日	コンサート名 他	購入楽譜	購入先
19.8.30	—	楽団所有楽譜	ビバルディ/四季、グールド/シンフォニエッタ	ミュージック・サブライ
ク	19.9.21,22	9月定期演奏会	チャイコフスキー/地方長官	ク
ク	19.7.24	札幌ポップス	千の風になって 他	ミュージック・ボックス
19.9.27	19.8.2	アキラさんの大発見コンサート	ただいま考え中 他	東京ハッスルコピー
20.3.21	—	楽団所有楽譜	ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」新ブライツコップ版	ミュージック・サブライ

交流会も盛り上がりました

5月24日、定期演奏会B日程終了後に札幌の団員さんと札幌くらぶの会員との懇親会が開催されました。会場には尾高音楽監督、コンサートマスターの大平まゆみさん、三上亮さんをはじめ多くの楽員さんと事務局から西村専務理事、宮沢事務局長、宮下事業部長にご参加頂きました。演奏会終了直後にもかかわらず、お疲れの様子も見せず、話に花が咲いていました。

あちこちから声がかかり忙しそうなかで、何人かの楽員さんより札幌くらぶへコメントを頂くことができました。

まずはコンサートマスターの三上さんから。「札幌くらぶの皆さん

のバックアップのおかげで、より演奏に力を入れることが出来ます。これからもよろしく願います。」

続いて2日後に「ノンノン・フェアリー」のデビューコンサートを控えたヴィオラの辻さんより。「毎年、コンサートの宣伝をさせて頂いて、聴きにきて頂いて、いつもありがとうございます。」

そして、この度ご結婚が決まり6月で退団される坂さんからも。「札幌に7年間いたけれど、札幌くらぶの存在は私にとって、札幌

響にとっても大きかったです。ありがとうございました。また、ノンノン・フェアリーで札幌に来るのでよろしく願います。」

参加した会員の皆さんは、楽員さんとの会話を楽しんだり、サイトを貫きに回ったりと思いの時間を過ごしました。いつも思うことですが、この懇親会は団員さんの参加も多く、アットホームな雰囲気の会ですので、次回は更に沢山の会員さんのご参加をお待ちしております。

(三野麻紀)



ノンノン・フェアリー デビュー

交流会に参加してくれた、札幌の若き妖精たちがリサイタルを行いました。織田美貴子(Vn)さん、辻彩子(Va)さん、坂葉々子(Vc)さんの3人によるノンノン・フェアリー弦楽三重奏団です。交流会では「初めてのトリオ結成でドキドキなんですけど、頑張ります」と力強くおっしゃられていました。定期演奏会のロビーコンサートでもおなじみの3人ですが、リサイタルに向けて一段と意気込みが感じられました。

5月26日、ルーテルホールで行

われた演奏会は、モーツァルトとベートーヴェンという古典への挑戦でした。はじめは3人ともに緊張した様子でしたが、すぐに緊張もほぐれ堂々たる演奏になりました。終演後、熱い拍手におくられ、3人は出口で観客のお見送りをしました。残念ながら、坂さんは群馬交響楽団のチェリストとの結婚が決まり、6月で札幌を退団となりますが、まだまだ可能性を秘めた3人ですので、今後も是非活動を続けていただきたいと思います。



交流会でのノンノン・フェアリー



終演後のノンノン・フェアリー

ラドミル・エリシュカ首席客演指揮者、札幌定期演奏会に登場



06年12月の第494回定期演奏会で札幌を指揮し、大きな感動を私たちに残してくれたラドミル・エリシュカ氏が4月の第508回定期演奏会に首席客演指揮者として札幌に帰ってきてくれました。それまで、日本ではあまり知られていなかったエリシュカ氏ですが、06年の定期演奏会では夜の定期での評判を聞きつけた聴衆が次の日の昼の演奏会に押しかけ、会場が満席になったという伝説の指揮者です。私たちが、エリシュカ氏が再度札幌を振ってくださることを熱望していましたが、このたび札幌が、新たに首席客演指揮者というポストを用意し彼を向かえました。また、エリシュカ氏も札幌の演奏に対する真摯さに心をうたれたと述べており、まさに、相思相愛の関係といえるでしょう。事実、4月の定期演奏会終了時、会場の聴衆に向かって、札幌の団員に向かって何度も頭を下げられ、感謝の意を表していました。私たちが、「タラス・プーリバ」(ヤナーチェク)という、日頃なじみのない曲目にもかかわらず大きな感銘を受け、惜しみない拍手を送りました。定期演奏会B日程終演後、キタラの会議室において、就任記者会見が行われ、エリシュカ氏は次のように語られました。



「今回、首席客演指揮者としてお招きいただき、本当にありがとうございます。また、昨日今日とすばらしいコンサートになったことを、あらためて札幌交響楽団の皆さんと聴衆の皆さんに感謝申し上げます。思い出しますのは、06年の12月に初めて札幌交響楽団の皆さんと出会って、「金の紡ぎ車」、「シェエラザード」をやったときのことです。そのとき、私はこの札幌という街が大好きになりましたし、オケの皆様がとても暖かい人達だということが印象に残りました。私は、多くのオーケストラと協演してきましたが、札幌交響楽団との協演というのは特別にお互いが親近感をもちあえる関係、心と心が通じ合うようなとてもいい関係を作れたと思います。札幌交響楽団はとてもよいオーケストラだと断言できるのですが、例えば、一日目のリハーサルで私が要求したことを二日目にはきちんと答えてくれる、そういう信頼関係を築くことが出来ました。もちろんチェコでも東京、大阪と並び札幌は良く名前の知られた街な



のですが、私が就任したことによりプラハの町に札幌をより知らせることが出来るのではないかと考えています。来年度については春と秋に札幌交響楽団を振ることになっています。プログラムはまだ未定ですが、なるべくオーケストラの期待にこたえたいと思っています。でも、私はチェコのドヴォルジャーク協会の会長ですから、「新世界」だけではなく、ドヴォルジャークのたくさんあるよい曲を紹介できたらと思っています。最後になりますが、札幌交響楽団の皆さんはとても暖かい愛すべき人たちだと確信しています。私は今年77歳で若くはありません。

でも人間は新しい課題に取り組んでいくと若返るものと思っています。ですから私は、札幌に来るたびに若返っていくと確信しています。」

「今回の演奏会はどのような部分に力を入れましたか」という記者の質問に対しては、

「今回の3曲はどれも難しい曲ですが、何といってもヤナーチェ



クの「タラス・プーリバ」がとても大変だと思います。というのは、この曲の楽譜はいろいろな版が出ており、解釈もいろいろありますが、すべてが完璧というわけではありません。今回、パート譜を見せてもらいましたが実にいろいろな書き込みがしてある。その中には私にとってとても理解しがたいものもありました。私が今回札幌でやるべきことは、ヤナーチェクの直接の弟子であったバカラ教授が、ヤナーチェクの同意を得て解釈を書き加えた真の「タラス・プーリバ」をきちんと伝えること、これが正しい「タラス・プーリバ」だというものを伝えることが、一番大変な部分だったと思います。」と答えておられました。

なお、次年度のエリシュカ指揮・札幌演奏会の予定は
2009年4月17日(金)、18日(土)
第518回定期演奏会
2009年秋
名曲シリーズ または 特別演奏会 (調整中)
となっています。曲目等は未定ですが、感動的な演奏会になることは間違いありません。どうぞ、ご期待下さい。

札幌物語 42

500回定期を迎える 札幌の街（その4）



今年も PMF の夏がやってきた。第1回目が開催された1990年の前後は世界情勢が騒然としていた。'89年6月には中国で第2次天安門事件が勃発、同年11月にはベルリンの壁が崩壊、'91年にはソヴィエト連邦が崩壊した。そんな頃、札幌では'82年に計画が始まった「モエレ沼公園」に'88年にはイサム・ノグチが設計に参画、工事が始まった。'89年5月には'90年に札幌市が中心になって開催された「ユーフォニウム・チューバ世界大会」実行委員会が発足した。その直後に PMF が突然やって来ることになる。また'89年には「札幌芸術の森」の第2期工事として野外ステージの工事が始まった。PMF がやって来るようになって工事中の芸術の森野外ステージが突然拡大に向け設計変更された。音楽界では巨匠ヘルベルト・フォン・カラヤンが'89年に亡くなり、'90年には日本を代表する指揮者の1人渡辺暁雄氏が PMF 開催以前に、PMF 提唱者のレナード・バーンスタインは第1回 PMF 終了後わずか3ヶ月で亡くなった。

アメリカで4年ごとに開催され

ていた「ユーフォニウム・チューバ世界大会」が初めて札幌で開催され、国内外から500人もユーフォニウムとチューバ奏者や関係する作曲家が集まった。札幌で開催されることになったのは当時の札幌チューバ奏者、香川千盾氏が私費を投じて長年開催して来た札幌での「チューバ・ユーフォニウム・ミュージック・キャンプ」の実績が大きな布石になっていた。

世界の第一人者、ユーフォニウム奏者の名手ブライアン・ボーマンなど名だたるユーフォニウムとチューバの演奏者が多数札幌に集まった。世界初演になるチューバ協奏曲を披露したいのに実行委員会には札幌を雇う予算がなかった。そこで札幌は文化庁に断った上で7月開催予定の第316回定期演奏会を8月10日（金）、つまり世界大会のフィナーレに設定し世界初演のユーフォニウムのための「コンチェルト・サッポロ」とチューバのための「ソング・オブ・アクセント」の世界初演を行った。この日程変更は文化庁の助成事業としては全く問題にならなかったのだが、一部の定期会員の怒りを買

い文化庁にまでオーケストラの定期演奏会の有り方について指導が徹底していないと抗議の手紙が来たそうである。しかし、大多数の定期会員から感謝され、この演奏会のお陰で札幌は一躍世界に名を知られることになった。

'89年4月、第302回定期から故山田一雄マエストロ（ヤマカズと親しまれた）のベートーベン・シリーズが始まった。このシリーズの打ち合わせにご自宅へ伺った時に「是非やらせて」と大乗り気でプログラムの組み立てを考えて下さった。その中で交響曲だけでなく劇付随音楽「エグモント」全曲と「ミサ・ソレムニス」をやりたい、と熱っぽく語られた。交響曲は順調にこなされ、残るは交響曲第1番と「エグモント」全曲、「ミサ・ソレムニス」だけになった。第1番と「エグモント」の演奏を予定した'91年10月、第329回定期演奏会の直前、8月13日早朝に氏は急逝された。享年79歳だった。この演奏会、替わりに氏の愛弟子、矢崎彦太郎氏が予定されていたプログラムで、「エグモント」は予定通り実相寺昭雄の演出で演奏した。シリーズ最終回に予定していた「ミサ・ソレムニス」は故佐藤功太郎氏が指揮をした。

[続く]

(竹津宜男)

楽員さん出演 コンサート案内

みんなで応援しましょう（詳しくは札幌ホームページで）

■Mayumi Vol. 2

6月26日（木） 19:00開演

場 所：ザ・ルーテルホール

出 演：大平まゆみ（札幌コンサートマスター）
浅井 智子（ピアノ）

曲 目：ドビュッシー／ヴァイオリンソナタ
サラサーテ／「カルメン幻想曲」
ラヴェル／ヴァイオリンソナタ

料 金：3,500（全席自由）

問合せ：エム・ムートン
011-667-0298



■アーベントシュテルン

コンサート2008

8月25日（月） 19:00開演

場 所：Kitara 小ホール

出 演：大平由美子（ピアノ）

平井 有（ソプラノ）

福田善亮（札幌トランペット首席）

大澤 敬（札幌コントラバス）

料 金：3,000（自由席）

3,500（当日券）

ブリテン作曲 歌劇『ピーター・グライムズ』ってどんな曲

登場人物

- ピーター・グライムズ : 独身の漁師。振る舞いが粗暴であり、村人から嫌われている。
エレン・オーフォード : 村の学校教師。ピーターに好意を持っており、村人の間で孤立しがちな彼を一人支援している。
ボルストロード : 退役した船長。村人から慕われ、ピーターにも助言を与える。
ジョン : ピーターが孤児院から漁師見習いとしてもらい受けた少年。
アーンティ : 村のパブ『猪亭 The Boar』の女将
ボブ・ボウルズ : メソジスト教徒の漁師。日頃からピーター・グライムズのことをよく思っていない。
セドリー夫人 : 大金持ちの未亡人。ゴシップで人が騒ぐのを楽しみにしている。

お話

【プロローグ】

☆村の公会堂の中

漁師ピーター・グライムズの舟で働いていた少年が死亡した事件についての公判が行われています。ピーターは漁で3日間漂流し、最後には飲み水も切れてしまい少年は死んでしまったと証言しますが、村人は皆、疑っています。十分な証拠がないまま、結局少年は事故死として処理されピーターは無罪となります。判事は「以後、少年を雇わないように」という冷たい勧告をします。

【第1幕】

☆第1場 海辺の通り

数日後、ピーターは判事に背き新しい少年を雇うことに。孤児を金で売買することに対し村人たちは非難しますが、エレンはピーターが立ち直るきっかけになればと思い、少年を孤児院から連れてくることに協力します。

☆第2場 パブ『猪亭 The Boar』

閉店間際のパブの中。セドリー夫人が阿片の売人待ち、酒に酔った村人たちはカードに興じて大賑わいです。そこへ村八分になっているピーターがずぶ濡れの姿で入ってきます。ピーターは訳の分からない言葉を言い、支離滅裂な歌を歌い出します。皆は「彼は狂っているぞ。追い出せ。」と囁き合い、ピーターとボウルズは掴み合いとなります。居合わせたボルストロードは、この場を収めようと歌を歌うよう皆に促します。

【第2幕】

☆第1場 海辺の通り

数週間後、教会の前で、エレンは少年ジョンに話しかけます。この時、エレンは少年の襟首に打たれたような痣があることを見つけ、ピーターが虐待している事に気づきます。そこへピーターがやって来て、日曜（安息日）にも関わらず、少年を漁に連れて行こうとします。エレンは「子供には優しくしてあげて！週に一度は休ませてあげると言ったじゃないの！」と懇願しますが、ピーターは逆上し、エレンを殴り、無理やり少年を連れて去っていきます。その様子を見ていたパブの女将アーンティらは憤慨し、村人たちはピーターの家を押しかけようとして、

☆第2場 ピーターの小屋

ピーターは少年に仕度をさせ、意気込んで漁へ連れて行こうとしています。その時村人たちが押し寄せてくるのに気づいたピーターは、少年に後の扉からロープを使って崖づたいに浜へ降りると命令します。ところが少年は手を滑らせバランスを失い、断崖の下へ落ちてしまいます。ピーターは驚いてその後を追います。そこへやってきた村人たちがピーターの小屋に入ると、誰もいません。一同、思ったよりも部屋が整然としていることに安心して帰ることにします。しかしボルストロードだけは少年の破れた服と切れたロープの先に気づきます…。

【第3幕】

☆第1場 海辺の通り

夜更け。公会堂の舞踏会が終わり、村人たちは家に帰ります。セドリー夫人だけは一人、ピーターが少年を殺したに違いないと疑っており、噂話になりそうな獲物を不気味な目で監視しています。ボルストロードがエレンと海辺の通りにやってきます。そして子供のセーターを海辺で拾ったことを話します。エレンは錨の刺繍柄を見て、自分が少年のために編んであげたものだと言います。2人はピーターを捜しに出かけますが、この話を聞いていたセドリー夫人は皆にふれ回ります。一同は「徹底的に探し出せ！人殺しには償いをさせるのだ！！」と力強く合唱し、もう村全体は常軌を逸し、ピーターを死に追い詰める群衆となっていました。

☆第2場 海辺の通り

遠くで「ピーター・グライムズ」と村人たちの叫び声が聞こえています。やつれはてて戻ってきたピーターにエレンとボルストロードが声をかけますが、彼にはその声も耳に入らない様子です。ボルストロードは海の男の掟として、沖に出てそのまま舟を沈めるようにと自殺をほのめかします。エレンの「やめて！」という声もむなしく、ピーターはそれに従います。放心したエレンを抱えるボルストロード。やがて夜が明け、人々はいつもの朝の仕事にかかります。まるで何もなかったかのよう…。

以上がこのオペラのあらすじですが、誌面の関係上かなりの駆け足になっています。このオペラはオーケストラも合唱も演奏が大変難しく、現在、猛練習中と聞きます。今回の公演は、演奏会形式ですので純粋に音楽を楽しむことが出来ます。ですが会報42号で尾高忠明音楽監督が語られたとおり、この20世紀を代表する傑作オペラを味わうためには予めDVDを見ておくとか、CDを聴いておくとか準備が必要です。このオペラを十分楽しむためにも、準備をして聴きに行きましょう。

Player's talk 1

ホルン
いちかわ
市川

まさとし
雅敏



——ご出身は

ホルンとの出会いは

札幌です。はえ抜きの道産子です。ホルンとの出会いは実は中3のとき、学校にそれまではなかった吹奏楽部ができたのです。ある日突然、「プラスバンド部ができました。入部したい人は放課後に音楽室に集合してください。」という放送があって、入部しようかなと思って行ってみました。すると、たくさん人が来ていて各自が楽器を手をしているんですね。早い者順で楽器を選んでいました。それでもう楽器が残ってなかった。よく見るとホルンが一本、ケースも何もなくむき出しのままゴロンと残っていた。それが、ホルンを始めたきっかけです。その楽器は、イタリア製で音のなかなか鳴らない楽器でした。しかも、サイズがでかい。外人サイズなので、親指と小指の間隔が持てないほど広い。すごく苦勞したのを覚えています。でも、だんだん面白くなってきて、高校はオーケストラのある西高に進学しました。そこで、ホルンの先輩に連れられてHBCジュニアオーケストラに行きました。そこで知り合ったのが、今、一緒にやっている菅野(猛)君です。だから彼のことは高校生のときから知っている、くされ縁ですね。ホルンの練習は高校入学のときに札幌の先生につきました。最初は直江先生に、途中から窪田先生に替わりました。

——札幌入団までの経緯は

大学は国立音大に進学しました。同期にホルンは5人いましたが、僕を含めて3人が札幌出身でした。菅野君も一緒でした。よく一緒に酒を飲んで「二人で札幌に入ろうな」って言っていました。それで、卒業する年の4月に窪田さんから札幌に呼んでもらいました。準団員って言うか、正式に入団するのは次の年なのですが、団員と同じ待遇で1年間札幌に出演していました。

——実際、札幌に入団されてど

うでしたか

はじめは、本当に嬉しかったです。嬉しかった次に来たのは辛かったですね、厳しくて。高校時代の先生だった窪田さんが半端じゃなく耳がよくて、音程に非常にうるさい人でした。当時は、ファゴットの戸澤さんもいらっしゃって。みんな温かい人なのですが、厳しさも持っていました。よく、飲み誘われては、アドバイスしてくれるのです。でも、当時の若造としては何を言われてるんだかさっぱり分からない。何年かしてから、「あの時に言っていたのはこういう事なんだ！」と分かってきたんですね。こんな年の離れた者に対して、対等にも話をしてくれるって言うのは、いろいろ職業はあるけどオケだけですよ。今となっては宝物です。当時、札幌の管楽器にはすごい先輩がたくさんいたんですよ。

——思い出に残る演奏会は

札幌として一番最初に出演した定期演奏会です。何を演奏したかは全然覚えてないけど、その雰囲気ってというのが頭に残っていますね。そのときはセカンドを吹いていましたが、演奏中に横で首席の窪田さんが音程の「高い」「低い」を手で指示するわけです。曲に関しては何にも覚えてない、それだけが強烈な印象でした。自分がある程度オケマンになってからは、何といても山田一雄先生ですね。あんな素敵なお人はいません。棒(指揮)は、全然わからない、でも山田先生のやりたい音楽っていうのは素晴らしくて、それはビシビシ伝わってくる。本番は怖いですが、ものすごい緊張感です。棒を見ているだけではダメで、かもし出す雰囲気を察知して、オーケストラでアンサンブルを作ってゆく。大変だったけど、お客さんの受けは最高によかったです。

——ホルンの特色、魅力は

音色ですね。それとアンサンブル楽器だということ。1人より2

人、2人より4人で吹いた方がいい音があるし、できることが増えるのです。そして、オーケストラでは仕事量が多いです。金管の歴史はあまり長くないのですが、ホルンは早くから音階が吹けたので古い作品から使われています。R・シュトラウスやマーラーはホルンがないと曲が成り立たないし、ブラームスの作品ではアルペンホルンだったりナチュラルホルンだったり様々な使い方がされている。作曲家によりそれぞれ味が違います。普通、楽器は一番奏者がソロを吹くのですが、例えばブラームスなんかは、ホルンの三番奏者に重要なソロを持ってきます。極端な話ですが、演奏中に自分のソロの前になるとホルンなんてやんなきゃ良かったと思ひ、ソロを吹いた後は、やっぱりやっけてよかったと思ひます。でもやっぱり、ホルンの一番の魅力は、4本でやるコラール、和音ですね。

——休みの日は

テレビで野球やサッカーを見るのが好きですが、やる事がないとホルンを吹いていますね。全く吹かない日も作っているのですが、一日吹かないと戻るので二日かかると、それがいやで吹いています。野球は好きですね。息子が小学生の時は息子のチームのコーチもしていました。ノックもしていたんですよ。その子が高校球児として甲子園に出場したので、子供のおかげで甲子園に連れて行ってもらえました。

——札幌くらぶにひとこと

いつもありがとうございます。オケにサポーターがついていると言うのは、他のオケの人からもいいねと言われるくらい、ありがたいことだと思っています。もっと、札幌と札幌くらぶが話し合いを深めお互いを理解できれば、もっともっとよい関係を築けると思ひます。より近い関係を築き、長く続いてほしいと思っています。

(松尾英樹)

Player's talk 2

ヴァイオリン

小笠原優子



——ご出身は

宮城県の石巻市に生まれましたが、すぐに大阪に移り、大阪で育ちました。よく遊びよく寝る子どもだったようで、初めてヴァイオリンを習いに行ったころには構えたまま、ヴァイオリンのあご当ての上で寝ちゃっていたようです。もともとピアノやエレクトーンを習っていましたが、ヴァイオリンを始めたのは、姉がピアノをやっていたので、母が私には別の楽器をやらせてみようと思ったようです。突然ヴァイオリンを持ってきた母が、「はい、これ。明日レッスン行くからね」って。

——ヴァイオリンのプロになる うと意識したのは

中学は普通の私立だったのですが、高校、大学は小さい頃から習っていた小栗まち絵先生が行くっしやる相愛高校の音楽科に行くこと漠然と決まっていた感じで、周りのみんなも「行くんでしょ」っていう雰囲気でした。で、気づいたらなっていたってうか、他の道は考えたことがありません。その頃からプロになろうという意識も少しあって、いつかは舞台上立って、拍手をいっぱい貰いたいなって。そのように出来ればいいな、とは心のどこかで思っていました。

——留学のお話を聞かせてください

中学2年生のときに相愛のジュニアオーケストラでヨーロッパに演奏旅行に行きました。そのときから外国に行けばもっと得られるものがあるんじゃないかと思っていました。また、学生時代に霧島国際音楽祭でザハール・ブロン先生のマスタークラスを受講して、他の受講生の志の高さに触発され、その思いは強くなりました。その後、大学の専攻科に在籍しているときに、先生に留学を相談しました。どこに行ったらよいかもわからない状態だったのですが、「プラハだったら綺麗な街だし、いるだけで勉強になるのでは」と言われて、卒業してすぐにプラハに行きました。海外旅行を一人でしたことがなかったので、飛行機に無

事乗れるかどうか心配でしたが、留学生活をすることについての不安はありませんでした。チェコ語は、挨拶と買い物とレストランで困らないくらいしか話せません。この前エリシュカさんと話したら、ぜんぜん喋れなくて…。留学していた時は残念ながらエリシュカさんのことは存知あげませんでした。後で分かったことですが、プラハで習った先生とエリシュカさんは同級生だったようです。プラハではいろいろな作曲家の曲を勉強しましたが、モーツァルトは徹底的にやりました。そのせいか、モーツァルトは好きですね。

——4月の定期はエリシュカさんの指揮でしたが、どうでしたか

言葉の壁はありましたけど、楽しかったです。ゆるぎない音楽が彼の中にはあるのです。一本芯が通っているぶれない指揮者は、なかなかいないと思います。

——札幌入団のいきさつは

留学は2年間と決めていてどうしようかと思っていたら、小栗先生からオーディションがあると連絡をいただきました。以前から、日本に帰ったらオーケストラの仕事がしたいと先生には伝えてありました。それまで、残念ながら札幌の演奏を聴いた事はなかったのですが、札幌には相愛(大学)の先輩もいるし、相愛のオーケストラに尾高音楽監督が振りに来て下さったとき、私がコンミスをしていたので、面識がありました。そのときチャイコフスキーの「悲愴」を振ってくださり、世の中にはこんなすばらしい人がいるのだとみんなで感動したんです。北海道には修学旅行で来たり、友達が札幌に住んでいるので遊びに来たり、スノーボードを楽しんだりもしていました。なので、札幌に入団できたのは本当に嬉しかったです。

——入団されて、苦労されたことは

今でもそうですけど、初めて見る曲がたくさんあって。常に新しいものへの挑戦です。入団して2年目なのですが、あと1年くらい

は新しいものへの挑戦ですね、3年で大体レパートリーを一周するといわれています。今はいろいろ蓄える時期だと思っています。札幌で最初に弾いたのが井上道義さん指揮の「カルミナ・ブрана」。それが、すごく楽しかったです。井上さんの才能に触れることが出来たのはプロのオーケストラに入っていればこそ、と、とても感動しました。その後、その年の7月はPMFで武満さんの音楽を演奏して…武満さんのものは、もっととっつきにくいのかと思っていたら、涙が出そうなほど綺麗なメロディがあり、全く初めての経験でした。

——学校でのワークショップなども参加されていますね

子どもたちの反応はさまざまです。でも、素直に喜んでくれたときは本当に嬉しいですね。そばまで来て聴いてくれた子どもは大興奮で。別にきちっと座って聴いてくれなくてもよいので、楽しんでくれると嬉しいです。

——休日はどのように過ごしていますか

休みの日はだいたいお菓子を作っています。母はお菓子の先生でしたし、姉もお菓子の研究者として活動しています。実家に帰ったときは姉のところでお菓子のレッスンを受けています。札幌に帰ってきて、それを実際作ってみます。小さいときから母がお菓子を作っているのを見ていたので、基本的なことはマスターしています。

——札幌くらぶに一言お願いします

最近よく思うのは、ファンの方あつての演奏会だということ。なるべく感謝の気持ちをお伝えしたいと思っているのですがなかなか機会がなく、定期演奏会後のお見送りはそんな感謝の気持ちで出ていくようにしています。そのときにでも、感想とか声をかけていただくと嬉しいです。今後ともどうぞ、応援をよろしく願います。

(深井雅昭、松尾英樹)

新役員決定

総会において、新しい役員が承認されました。任期は2年です。札幌くらぶが行う各行事の企画・運営、会員へのサービス、会員数の拡大を目指し役員一同頑張りますので、よろしくお祈りします。

会 長 上田 文雄
副 会 長 鈴木 美保
西川 吉武
佐藤 良次
事務局 長 武藤 義典
事務局 次 長 佐藤 紀子
田山登代美
深井 雅昭
松尾 英樹
佐々木 保
普通会計担当 前田 郁子

特別会計担当 笠倉 聖子
運営スタッフ 鎌田 清美
長屋 純子
井上 明子
三野 麻紀
木澤 周次
林 義之
中山 正治
村上 均
会 計 監 事 佐藤 慶一
西川喜佐子

なお、札幌くらぶでは運営スタッフを募集しています。現在行っている交流会や、復活する『札幌くらぶコンサート』に向け、まだまだ人手が足りない状態です。一緒に企画・運営を行い、積極的に札幌を応援したい方、連絡をお待ちしています。

お便りをいただきました

「～(略)～ 過日、札幌くらぶ平成20年度総会並びに役員改選無事に終えて引き続き役員、ボランティアの皆様には二年間のお勤め本当にご苦労様です。私も早く退院し札幌くらぶ活動に社会復帰してお役にたてる様その日が来ることを楽しみにしていますので今後ともよろしくお祈り申し上げます。また、総会終了後は定期演奏会の会場ホールまで車椅子の移動に際しては案内していただき、お世話と気配り頂き感謝と重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。～(略)～」

治療入院中の方よりお手紙をいただきました。総会に参加して頂きありがとうございます。一日も早い社会復帰をお祈りいたします。その時には私どもと共に札幌を盛りたてていきましょう。

札幌くらぶ会員特典

会員の特典は以下のとおりです。有効にご利用下さい。
また、特典を提供してくれるお店をご存知の方はご一報ください。

●札幌交響楽団定期演奏会、名曲シリーズのチケットの10%割引ただし、キタラチケットセンターのみの取り扱いとなります。他のチケットセンターでは適用されません。また、電話での予約は出来ません。窓口で会員証を提示した上でチケットをお求め下さい。

●テラスレストラン・キタラ 飲食10%割引。ただし、一部の商品を除きます。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。
●キクヤ楽器店(狸小路3丁目) 楽器以外の商品10%割引。ただし、店内に限ります。キタラ等

の出店では適用されません。

●スナック『りつこ』(南6西3第2桂和ビル2F)

「札幌くらぶ溜り場」として特別価格2,500円(税込)でウィスキー、焼酎2時間以内飲み放題(おつまみ、カラオケ付き)

●ダイニング『イル・ネージュ』(北区北12西1 北12条パークマンション1F)

札幌くらぶと申し出てください。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは ☎(011)717-2555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いません。特に期限はありませんが、7月31日までに投稿して下さった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。プレゼント商品

- ① 9月の札幌定期演奏会『ピーターグライムス』のS席チケット(3名様)(座席の指定はできません)
 - ② 市川雅敏さんのサイン入り色紙(2名様)
 - ③ 小笠原優子さんのサイン入り色紙(2名様)
- 投稿は、ハガキ、封書またはEメールでお送り下さい。なお、

その際必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。(あて先は会報の題字の下にあります)

編集後記

総会において新役員が選出されました。来年度、復活が予定されている『札幌くらぶコンサート』に向けて一同頑張っています。会員の皆様の協力も必要としています。コンサートの

企画や選曲についてのご意見がございましたら、どしどしお寄せ下さい。また、会報の感想もお待ちしています。

話は変わりますが、先日、あるコンサートで「ヴァイオリンとピアノのための幻想曲」(シューベルト)という曲を聴きました。それまで、一度も耳

にしたことのない曲だったのですが、演奏者(庄司紗矢香・小菅優)がすばらしいせいもあり、聞いた後で「よかった、よかった」と周りの人に連呼して帰ってきました。こういう新しい出会いがあるので、コンサートはやめられません。

(松尾英樹)